

# 令和4年度 南三陸町被災地支援事業（間伐対象樹木の移植準備について）

2022年11月25日・26日実施

一般社団法人 世田谷造園協力会

特定非営利活動法人 世田谷のみどりと防災を考える会

（一社）世田谷造園協力会ならびに特定非営利活動法人世田谷のみどりと防災を考える会では、東日本大震災発生直後より支援活動を継続している宮城県南三陸町において、2016年6月に「マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木」の植樹事業を実施しました。これは松枯れ病の大規模な発生により大きな被害を受けた、同町の歌津崎尾崎周辺の環境と景観の回復への取り組みとして行われました。崖地に150本、平地に350本の植樹を行い、崖地では約5割、平地では9割の活着がみられ、特に平地では樹高が2～3m、目通り幹回りで10cmから18cm程度に成長しています。



平地の生育状況(令和4年4月撮影)



崖地の生育状況(令和4年4月撮影)

植付け時には約1mの間隔で苗木を植樹しましたが、特に平地では予想以上に順調な生育がみられることから、近い将来に間伐の必要が生じる状況になっています。間伐は林内に適正な個体数を残して過剰な樹木を伐採し、採光を図ることによって下層植生を保持し、表土の流出を防ぐと共に森林の水源涵養機能を高める目的があります。しかし今回の樹木はマツノザイセンチュウに抵抗性を持つ特性があり、この環境に順応して元気に成長してきた特別な樹木でもあります。そこで間伐対象になる樹木のうち、比較的細く移植が可能なものについては他の場所への移植を検討してはどうかと考えました。そこで町役場にこの趣旨を説明し、南三陸町内での移植について提案をすることにいたしました。また、世田谷区内においてもクロマツ数本を寄贈いただいて記念樹としたい旨を伝え、その可否をお尋ねする事といたしました。



町役場での面談（中央が最知副町長）

11月25日13時より、町役場で最知副町長、千葉農林水産課長、西城農林業振興係主事の町幹部の皆様と面談をさせていただきました。元世田谷区職員で南三陸町にも出向していた志村有司さんから事前にお伝えしご調整をいただいた結果、町内での移植と世田谷区への寄贈についてもご快諾をいただきました。町内の移植先については、震災遺構である「高野会館」に隣接した、堤防沿いの旧松原公園の空地に植樹したいとの希望でした。歌津崎尾崎は県指定の「魚付き保護林」に指定されており、宮城県との協議を町役場にお願いをいたしました。また、これら地域一帯は震災後に国定公園から「三陸復興国立公園」に指定が変更された事から、環境省との調整も町にお願いをいたしました。





旧松原公園(後方に高野会館)



植栽場所(後方に堤防)

町役場では旧松原公園に30本程度の移植を希望しており、また世田谷区には枯損を見越して10本の寄贈をお願いいたしました。今回合計で40本の根回しを行う事といたしました。間伐樹木のうち目通り幹回りで15cm以内の樹木を対象とし、断根を行うと共に頂部の切りつめを行いました。



根回し作業状況(左から桑川俊也さん、志村有司さん、志村大治さん、上島よしみりさん)

二日間で合計40本の断根式根回しを完了いたしました。本年の4月に下見した時よりも更にマツノキが大きく成長し、移植に適切な大きさの樹木は以外に少なくなっていました。



根回し済みのクロマツ(青いテープ)

マツノキの移植は気温15度以下で特に2~4月が適期とされています。南三陸町は積雪は殆どないものの、冬期は低温のため土が凍って掘削が不可能になるため、2024年(令和6年)4月に実施をしたいと考えています。世田谷区の記念樹としては、新しく建設される本庁舎の植栽地に植えられるように、これから議会を通じて世田谷区に働きかけていこうと考えています。引き続きご理解とご協力の程をお願いいたします。